

雨量と降り方	
1時間の雨量	雨の降り方
8～15	雨の音が聞こえる。
15～20	地面一面水たまり。雨音で話し声がよく聞こえない。
20～30	どしゃ降り。側溝がたちまちあふれる。
30～50	バケツをひっくり返したよう。場合により避難の準備を始める。
50 以上	滝のように降る。土石流が起こりやすい。
風速と被害	
風速10 /秒	傘がさせない。
風速15 /秒	看板やトタン板が飛び始める。
風速20 /秒	小枝が折れる。
風速25 /秒	瓦が飛び、街路樹が倒れる。
風速30 /秒	雨戸が外れ、家が倒れることもある。

わが家の風水害対策

台風や大雨、強風。あなたの家の風水害対策は万全ですか。家の中や周囲をしっかりとチェックしてみましょう。

ベランダ

鉢植えや物干しざおなど飛散の危険が高い物は室内へ。

屋根

瓦のひび・割れ・ずれ・はがれはないか。

外壁

モルタルの壁に亀裂はないか。
板壁に腐りや浮きはないか。
プロパンガスのボンベは固定されているか。

雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていないか。継ぎ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。

窓ガラス

ひび割れ、窓枠のがたつきはないか。また、強風による飛来物などに備えて外側から板でふさぐなどの処置を。

ブロック塀

ひび割れや破損箇所はないか。

台風の勢力			
大きさ		強さ	
階級	風速秒速15以上の半径	階級	最大風速
なし	500 未満	なし	毎秒17 以上 33 未満
大型 (大きい)	500 以上 800 未満	強い	毎秒33 以上 44 未満
超大型 (非常に大きい)	800 以上	非常に強い 猛烈な	毎秒44 以上 54 未満 毎秒54 以上

風・大雨・洪水の注意報と警報の基準		
	注意報	警報
風	(強風注意報) 平均風速がおおむね毎秒13 を超え、主として強風による被害が予想される場合	(暴風警報) 平均風速がおおむね毎秒18 を超え、重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合
大雨	(大雨注意報) かなりの降雨があって被害が予想される場合	(大雨警報) 大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合
洪水	(洪水注意報) 大雨、長雨、融雪などの現象により河川の水が増し、そのため河川の堤防、ダムに損傷を与えるなどによって災害が起こるおそれがあると予想される場合	(洪水警報) 大雨、長雨、融雪などの現象により河川の水が増し、そのため河川の堤防、ダムに損傷を与えるなどによって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合

台風に備えた対策を

台風や豪雨を、予測できるからといって安易に考えてはいけません。大雨や強風は、これまでに何度も、わたしたちの生活に大きな被害をもたらしてきました。日ごろから、十分な対策を立てておきましょう。

日ごろからの心構えと準備

家の近くの危険場所と避難場所を、確認しておくことが大切です。いざというときのため、懐中電灯や携帯ラジオ、非常食などを常備しましょう。

台風が近づいたら

瓦や窓などを点検し、特に商店では、看板が風で飛ばされないように固定。むやみに外出せず、浸水などの恐れのある場所

気象情報正しく理解

台風や豪雨は、ある程度予測が可能です。強い雨が降り始めたら、テレビやラジオの気象情報に注意。また、気象情報で使われる言葉を正しく理解し、慌てずに予防策を立てましょう。

台風の大きさと強さ

気象庁では台風の勢力を示す

では、家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を高い所へ移動します。

避難するとき

単独行動は避け、地域のひとと協力し合って避難。お年寄りや体の不自由な人、病人などがいる家庭は特に早めに避難しましょう。避難勧告を受けたら、危険を感じなくても速やかに避難を。また勧告がなくても、危険と判断したら自主的に避難しましょう。

避難するときは、電気やガスなど火の始末、戸締まりを確実にしています。また、行動しやすい服装で丈夫な運動靴、手袋なども持ちましょう。

目安を、上表のとおり大きさと強さで表しています。

台風の大きさは、風速毎秒一五以上の強い風が吹いているか、または吹く可能性のある「強風域」の半径で区分。また強さは、最大風速で区別しています。

問い合わせは生活課

890—6238へ。